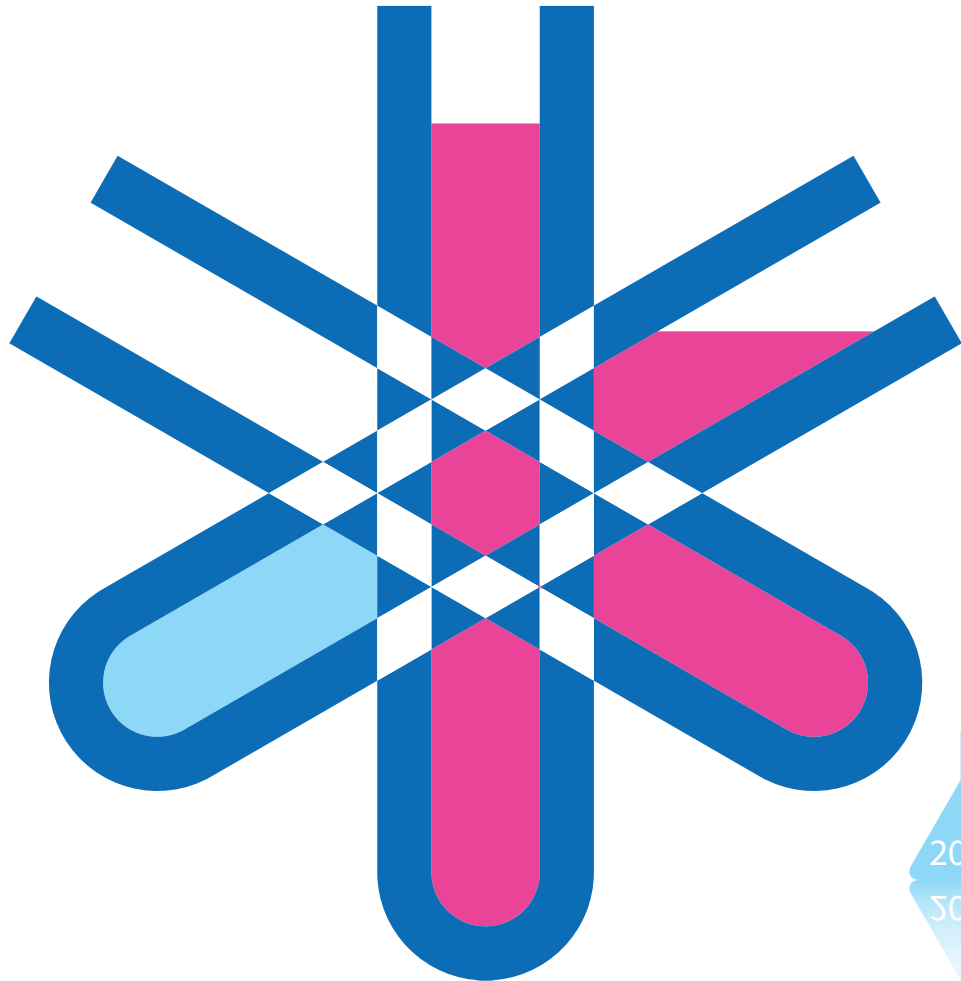


横查情報月報



横浜市衛生研究所

令和3年1月号 目次

【検査結果】

横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果(令和2年5月～10月)	1
食品中の動物用医薬品検査結果(令和2年11月)	6
食品アレルギー検査結果(令和2年9月～10月)	8

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告(令和2年12月)	10
----------------------------	----

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報(令和2年12月)	14
------------------------------	----

横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果(令和2年5月～10月)

当所では、健康福祉局蚊媒介感染症サーベイランス事業の一環として市内公園において蚊成虫生息状況調査を行っています。蚊媒介感染症は、デング熱、ジカウイルス感染症、チクングニア熱、ウエストナイル熱、日本脳炎、マラリアなどがあり、それぞれ主要媒介蚊が異なります(表1)。そのため、感染症発生時対策として、平常時から地域特有の蚊成虫生息状況を把握しておくことが必要です。

令和2年の蚊成虫捕獲調査は、新型コロナウイルスの影響により、例年継続実施してきた調査を大幅に縮小し、東京2020オリンピック・パラリンピックの会場やその周辺等のリスク地点を中心に行いました(図1、表2)。市内の蚊種類相の把握を目的としたライトトラップ法は、ドライアイス^{ひとつ}を誘引剤として用いた電池式ライトトラップ(CDC型:写真1)を、リスク地点6公園(7か所)、モニタリング地点1公園の合計7公園(8か所)に設置しました。また、ヤブカ属の捕獲を目的とした8分間人囀法^{ひとつ}は、捕虫網を用いて、山下公園(中区)、横浜公園(中区)、新横浜公園 横浜国際総合競技場(港北区:以下新横浜公園とする)、大通り公園(中区)の4公園(各公園3定点、合計12定点)で行いました。調査は、(公社)神奈川県ペストコントロール協会、衛生研究所が行いました。

捕獲された蚊は調査場所ごとに種類を同定し、雌成虫については、フラビウイルス属(デングウイルス、ジカウイルス、ウエストナイルウイルス、日本脳炎ウイルス)及びチクングニアウイルスの遺伝子検査を実施しました。ここでは、これらの調査結果について報告します。



図1 蚊成虫捕獲調査地点



写真1 CDC型ライトトラップ

表1 主な蚊媒介感染症

疾患名	国内生息の主な媒介蚊	感染環
デング熱		ヒト→蚊→ヒト
ジカウイルス感染症	ヒトスジシマカ	ヒト→蚊→ヒト
チクングニア熱		ヒト→蚊→ヒト
ウエストナイル熱	アカイエカ群	トリ→蚊→ヒト
日本脳炎	コガタアカイエカ	ブタ→蚊→ヒト
マラリア	ハマダラカ属	ヒト→蚊→ヒト

表2 蚊成虫捕獲調査地点

区	調査地点	ライトトラップ法	人囀法
西	臨港パーク(A)	○	—
リスク地点*1	山下公園(B)	○	○
	横浜公園(C)	○	○
	港の見える丘公園(D)	○	—
	大通り公園(E)	—	○
	新横浜駅前公園(F)	○	—
港北	新横浜公園 横浜国際総合競技場(G)	○	○
		2か所*3	
モニタリング地点*2	中 シンボルタワー(H)	○	—

*1 リスク地点(全12回調査):観光客の訪問、イベント開催、蚊の発生源・潜み場所が多い等が想定される場所

*2 モニタリング地点(全10回調査):市内の蚊種類相の把握を主な目的とした定点

*3 東ゲートと西ゲートでライトトラップ法の調査を実施

〈ライトトラップ法による蚊捕獲調査〉

ライトトラップ法による蚊成虫捕獲調査をリスク地点6公園(7か所)、モニタリング地点1公園の合計7公園(8か所)で延べ94回行い、結果を表3に示しました。

捕獲された蚊成虫の雌雄合計は、4属7種2,821個体でした。最も多く捕獲された種類は、ヒトスジシマカ1,891個体(67.0%)でした。次いで、アカイエカ群が825個体(29.2%)、コガタアカイエカが62個体(2.2%)、ハマダラナガスネカが14個体(0.5%)捕獲されました。

調査地点別の蚊捕獲数を図2に示しました。調査期間中最も多く蚊成虫が捕獲されたのは、臨港パーク(西区)の1,405個体で、次いで、港の見える丘公園(中区)が410個体、山下公園(中区)が327個体でした。種類別にみると、ヒトスジシマカは、臨港パークで1,218個体と最も多く捕獲され、次いで港の見える丘公園が317個体でした。アカイエカ群は、シンボルタワー(中区)で181個体と最も多く捕獲され、次いで臨港パークが165個体、山下公園が133個体でした。コガタアカイエカは、シンボルタワーで44個体と最も多く捕獲され、次いで臨港パークが11個体でした。

表3 ライトトラップ法による蚊の種類と総捕獲数(8か所:延べ94回^{*4})

属	種	捕獲数			
		雌	雄	合計	(%)
イエカ属	アカイエカ群 ^{*5}	815	10	825	(29.2)
	コガタアカイエカ	61	1	62	(2.2)
	カラツイエカ	4	0	4	(0.1)
ヤブカ属	ヒトスジシマカ	1,607	284	1,891	(67.0)
	ヤマトヤブカ	3	0	3	(0.1)
ナガハシカ属	キンパラナガハシカ	1	0	1	(0.04)
ナガスネカ属	ハマダラナガスネカ	14	0	14	(0.5)
破損(同定不能)		21	0	21	(0.7)
合計		2,526	295	2,821	

*4:リスク地点(7か所)は全12回、モニタリング地点(1か所)は全10回調査を行った。

*5:アカイエカ群には、アカイエカ、チカイエカ、ネッタイエカの3亜種が含まれる。3亜種は実体顕微鏡下での外部形態による同定が容易ではないため、多くの調査で、アカイエカ群として扱われている。

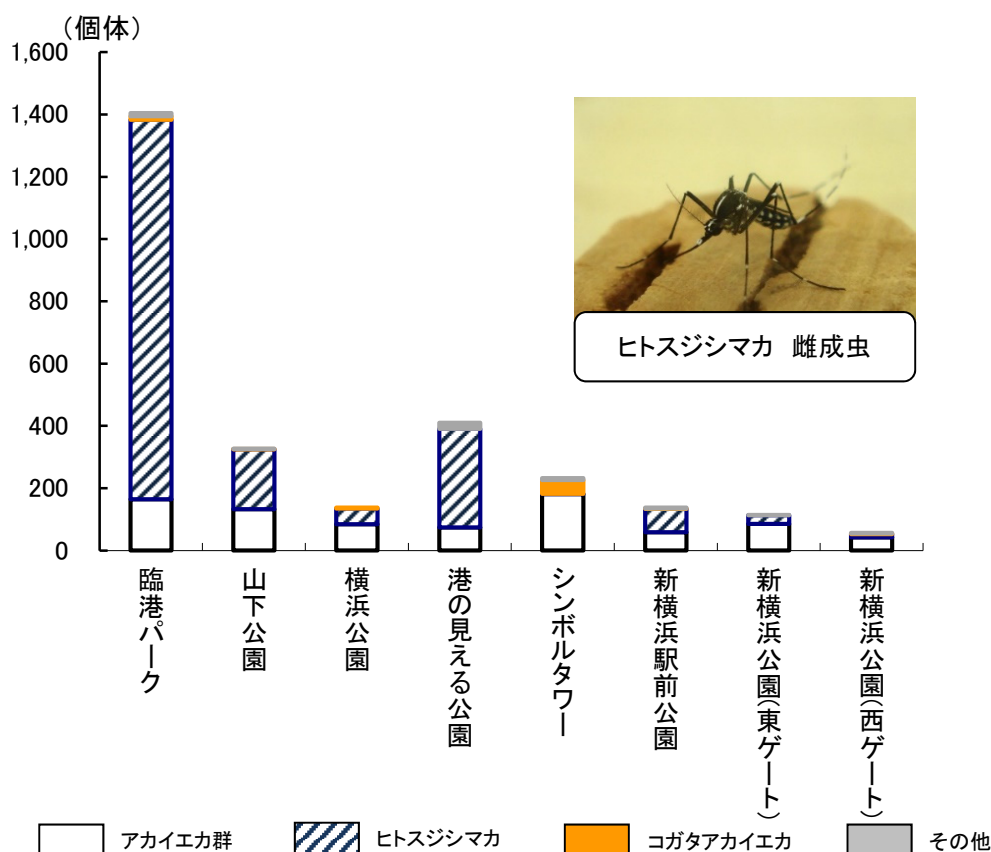


図2 調査地点別の蚊捕獲数

ひととおり
人囿法によるヒトスジシマカ捕獲調査

山下公園、横浜公園、新横浜公園、大通り公園の合計12定点において(図3)、人囿法(写真2)による蚊成虫調査を各12回(延べ144回)行いました。捕獲されたヒトスジシマカは、雌成虫が476個体、雄成虫が305個体、合計781個体でした。調査定点別の蚊捕獲数を表4に示しました。



①発電設備横 ②中央広場付近の植え込み ③世界の広場端の緑地



④旧市役所前 ⑤遊具広場横
⑥日本庭園スタジアム側



⑦東ゲート駐輪場奥 ⑧北ゲート階段奥
⑨西ゲート広場脇



⑩石の広場脇の小屋前 ⑪水の広場信号横のベンチ後
⑫テニスコート横の小屋前

ひととおり
図3 人囿法の調査定点

ひととおり
表4 人囮法によるヒトスジシマカ捕獲数

公園名	ヒトスジシマカ捕獲数			
	雌	雄	合計	
山下公園	①	62	45	107
	②	36	15	51
	③	135	135	270
横浜公園	④	30	13	43
	⑤	31	35	66
	⑥	59	31	90
新横浜公園・ 横浜国際総合 競技場	⑦	6	0	6
	⑧	10	0	10
	⑨	1	0	1
大通り公園	⑩	14	2	16
	⑪	47	16	63
	⑫	45	13	58
合計	476	305	781	

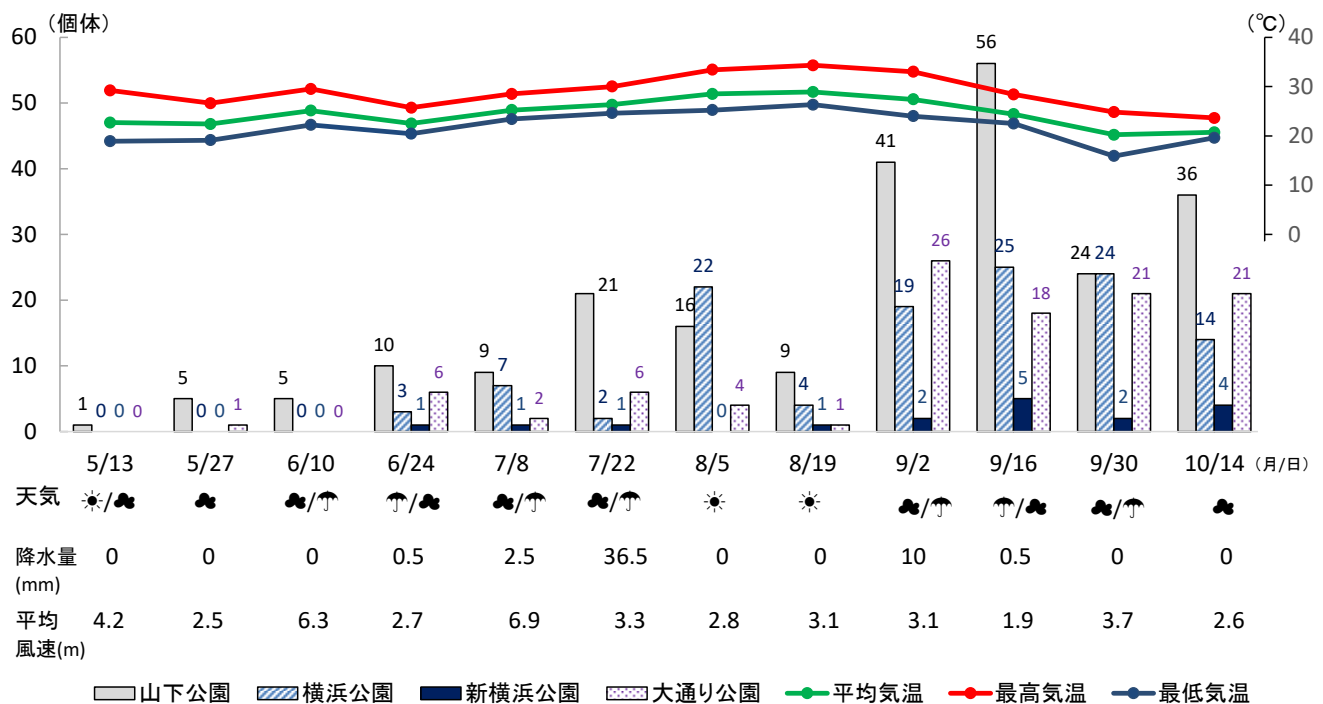


ひととおり
写真2 人囮法

ひととおり
〈人囮法によるヒトスジシマカ雌成虫消長〉

ひととおり
人囮法によって捕獲されたヒトスジシマカ雌成虫の消長(各公園3定点の合計捕獲数)と横浜気象台の気象データを図4に示しました。

ヒトスジシマカ雌成虫は、山下公園のみ5月から10月の調査期間を通じて捕獲されました。横浜公園と新横浜公園は、6/24から捕獲され、大通り公園は、5/13と6/10の調査では捕獲されませんでした。



ひととおり
図4 人囮法によるヒトスジシマカ雌成虫消長と気象データ

山下公園の各調査回のヒトスジシマカ雌成虫捕獲数は、初回調査の5/13に1個体捕獲され、7/22には21個体と増加しました。その後、8/19には9個体と減少しましたが、9/2には41個体となり、9/16には56個体と調査期間を通じて最も多くなりました。調査最終回の10/14は36個体と多く捕獲されました。

横浜公園は、7月までは、捕獲数が少ない傾向でしたが、8/5に22個体となり、9/16には25個体と調査期間を通じて最も多くなりました。9/30には24個体、10/14は14個体でした。

新横浜公園は、調査期間を通じて捕獲数が少なく、9/16が最も多く5個体でした。

今年度から調査を開始した大通り公園は、8月までは、捕獲数が少ない傾向でしたが、9/2に26個体と急増し、9/16には18個体、9/30と10/14は各21個体と多く捕獲されました。

山下公園、横浜公園、大通り公園は、9月から10月にかけて、ヒトスジシマカ雌成虫が多く捕獲される傾向でした。

なお、今回の調査においては、ヒトスジシマカ雌成虫捕獲数と横浜気象台 気象データ等に明確な関連性はみられませんでした。

気象データ:気象庁ホームページから

https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php?prec_no=46&block_no=47670&year=2020&month=&day=&view=

〈ウイルス検査〉

ライトトラップ法によって捕獲された雌成虫2,526個体、^{ひとつおとり}人囮法によって捕獲されたヒトスジシマカ雌成虫476個体について、フラビウイルス属(デングウイルス、ジカウイルス、ウエストナイルウイルス、日本脳炎ウイルス)及びチクングニアウイルスの遺伝子検査を実施し、全て不検出でした。

なお、詳細は、衛生研究所ホームページに掲載されています。

横浜市衛生研究所ホームページ:感染症発生状況資料集>病原体情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/byogentai/infc-kabaikai.html>

【 微生物検査研究課 医動物担当 ウイルス担当 】

食品中の動物用医薬品検査結果(令和2年11月)

動物用医薬品は畜水産物の疾病の治療、予防及び発育促進の目的で使用されています。食品中に残留する動物用医薬品が人の健康に害を及ぼすことのないよう、厚生労働省は動物用医薬品について残留基準を設定しています。

当所では、市内流通及びインターネット購入品の畜水産食品について検査を行っています。今回は、健康福祉局食品専門監視班が令和2年11月に収去及びインターネットで購入した食品の検査結果を報告します。魚介類等7検体(サーモン1検体、エビ2検体、ヒラメ3検体、銀鮭加工品1検体)について検査を行った結果、表に示すとおりヒラメ2検体からオキシテトラサイクリンを0.05ppm及び0.03ppm検出しました(基準値:0.2ppm)。これら以外の検体では、全ての項目で不検出でした。

表 検査項目、検査結果及び検出限界

検査項目	検査結果				検出限界
	サーモン (1検体)	エビ (2検体)	ヒラメ (3検体)	銀鮭加工品 (1検体)	
【合成抗菌剤】					
マラカイトグリーン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.002
ロイコマラカイトグリーン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.002
ニトロフラントイン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.001
フラゾリドン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.001
フラルタドン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.001
エンロフロキサシン (シプロフロキサシンとの和)	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オキシリニック酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オルビフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オルメトプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
クロピドール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
サラフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ジフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファキノキサリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジアジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジミジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジメトキシシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファドキシシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファピリジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメトキサゾール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメトキシピリダジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメラジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファモノメトキシシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ダノフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
チアンフェニコール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
トリメトプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ナリジクス酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ノルフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ピロミド酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
フルメキン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
マルボフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01

【抗生物質】					
オキシテトラサイクリン	N.D.	N.D.	検体①:0.05 検体②:0.03 検体③:N.D.	N.D.	0.02
クロルテトラサイクリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.03
テトラサイクリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.02
クロラムフェニコール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.0005

単位:ppm N.D.:不検出

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

食品アレルギー検査結果(令和2年9月～10月)

現在、食物アレルギーの原因となることが知られている食品原材料のうち、発症数が多いものや重篤度の高いもの7品目(卵、乳、小麦、そば、落花生、えび、かに)が特定原材料として指定されています。加工食品にこれら特定原材料を含む場合、その旨を表示することが義務付けられています。しかし、表示の記載漏れや製造・調理施設での混入(コンタミネーション)等により、食物アレルギーのある人がその食品を知らずに食べることで、じん麻疹、下痢、呼吸困難等のアレルギー症状を引き起こし、中には死に至るケースもあります。そのため、横浜市では主に特定原材料の表示がない食品や特定原材料除去食の検査を行っています。

令和2年9月～10月に、健康福祉局食品専門監視班及び金沢福祉保健センターが市内の食品製造施設から収去した食品25検体及び各区福祉保健センターが市内の小学校から収去した特定原材料除去食33検体について、卵、乳、小麦の検査を行いました。今回、これらの検査結果を報告します。

1 卵の検査

原材料に卵を使用していないとされる食品22検体について、卵の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング検査の結果、全て陰性(10ppm未満)でした(表1)。

表1 卵の検査結果

検体名	検体数	陽性数
弁当・そうざい類 (かきたま汁、親子丼の具等)	20	0
その他 (油、ポモドロソース)	2	0

2 乳の検査

原材料に乳を使用していないとされる食品26検体について、乳の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング検査の結果、全て陰性(10ppm未満)でした(表2)。

表2 乳の検査結果

検体名	検体数	陽性数
弁当・そうざい類 (さけのクリーム煮、クリームスープ等)	23	0
菓子類 (豆乳クリームブッセ)	1	0
その他 (油、ポモドロソース)	2	0

3 小麦の検査

原材料に小麦を使用していないとされる食品10検体について、小麦の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング検査の結果、全て陰性(10ppm未満)でした(表3)。

表3 小麦の検査結果

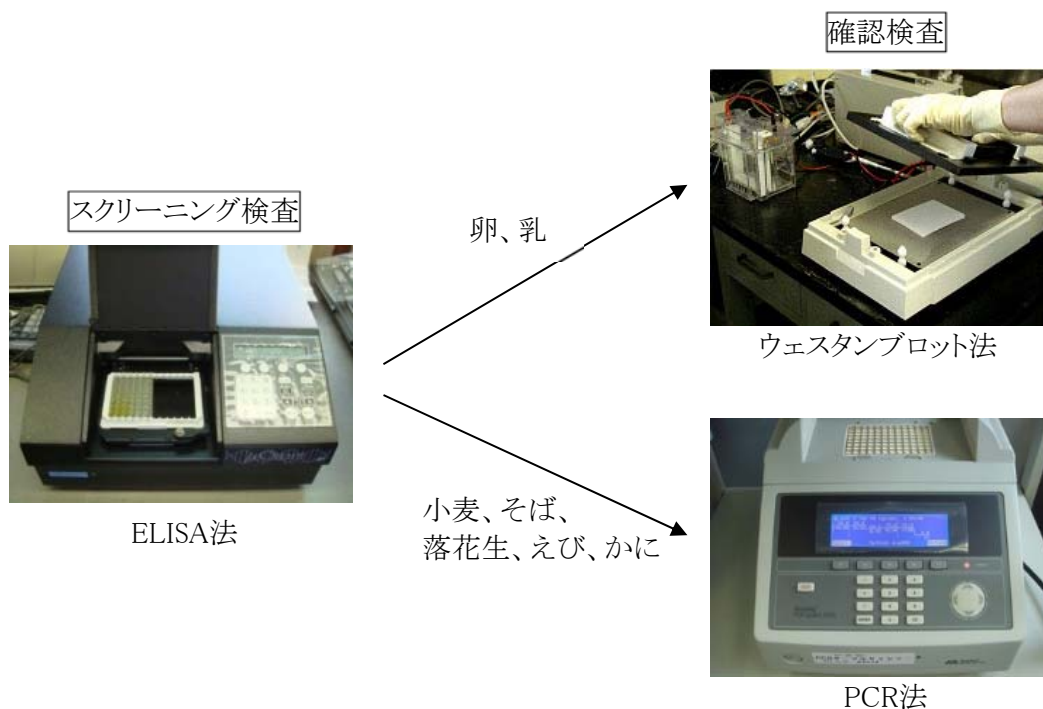
検体名	検体数	陽性数
弁当・そうざい類 (さけのクリーム煮、クリームスープ等)	6	0
菓子類 (豆乳クリームブッセ、プリン)	2	0
その他 (油、ポモドロソース)	2	0

「スクリーニング検査」と「確認検査」について

アレルギー物質を含む食品の検査では、まず、スクリーニング検査で陽性の可能性がある検体を選び出します。今回の検査では全て陰性でしたが、陽性の場合、別の検査法で再度陽性の確認を行います。

スクリーニング検査で用いるELISA法は、抗原抗体反応を利用して食品中に含まれる特定のタンパク質(アレルゲン)を検出する方法です。しかし、ELISA法では食品の加工度合いや使用原材料によって偽陽性となることがあります。そのため、スクリーニング検査で陽性となり、原材料表示に特定原材料の記載がなかった場合は確認検査を行います。

確認検査にはウェスタンブロット法とPCR法の2種類があります。「卵、乳」については、電気泳動によりタンパク質を分子量で分離して抗原抗体反応を行うウェスタンブロット法を用い、「小麦、そば、落花生、えび、かに」については、特異的なDNA領域を増幅して検出するPCR法を用いて確認します。



【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

横浜市感染症発生動向調査報告(令和2年12月)

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告が増加しています。
- インフルエンザ・感染性胃腸炎は例年より報告数が少ないです。

◇ 全数把握の対象

〈12月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	2件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
E型肝炎	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	4件
つつが虫病	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
レジオネラ症	2件	水痘(入院例に限る)	1件
アメーバ赤痢	2件	梅毒	16件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3件	百日咳	2件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1件	-	-

- 腸管出血性大腸菌感染症: O26が2件(うち1件が無症状病原体保有者)の報告がありました。
- E型肝炎: 無症状病原体保有者1件の報告がありました。感染経路等不明です。
- つつが虫病: 1件の報告がありました。神奈川県内での感染が推定されています。
- レジオネラ症: 肺炎型2件の報告がありました。水系感染が推定されています。
- アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が2件ありました。いずれも感染経路等不明です。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 3件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- クロイツフェルト・ヤコブ病: 古典型CJDの報告が1件ありました。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: G群1件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): 無症状病原体保有者2件、その他2件の報告がありました。いずれも男性で、感染経路はいずれも性的接触(同性間3件、異性間および同性間1件)でした。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 60歳代の報告が2件、70歳代の報告が2件ありました。感染経路等不明です。
- 水痘(入院例に限る): 40歳代の検査診断例の報告が1件ありました。
- 梅毒: 無症状病原体保有者4件、早期顕症梅毒Ⅰ期7件、早期顕症梅毒Ⅱ期5件の報告がありました。性別は男性13件、女性3件で、感染経路は性的接触による感染が15件(異性間9件、同性間2件、詳細不明3件)、不明2件でした。
- 百日咳: 10歳未満1件(ワクチン接種歴4回あり)、10歳代1件(ワクチン接種歴不明)の報告がありました。

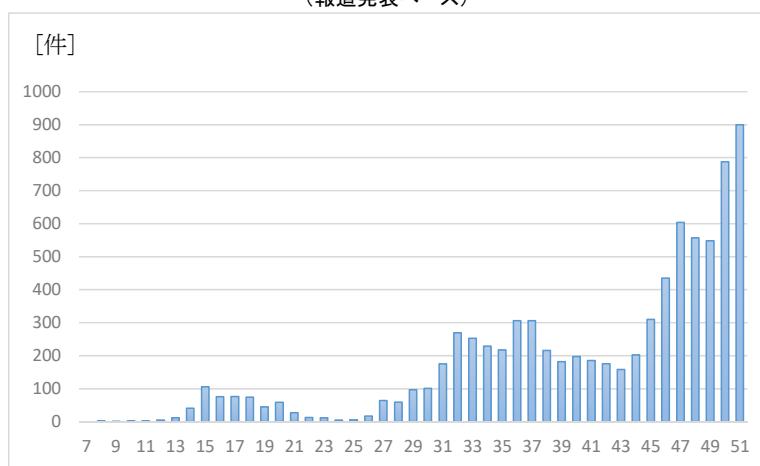
◇ 指定感染症(新型コロナウイルス感染症)

第47週～第51週に横浜市から報道発表のありました症例は3396件でした。

横浜市内の新型コロナウイルスに感染した患者の発生状況

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/yobosesshu/kansensho/coronavirus/kanja.html>

新型コロナウイルス感染症報告数
(報道発表ベース)

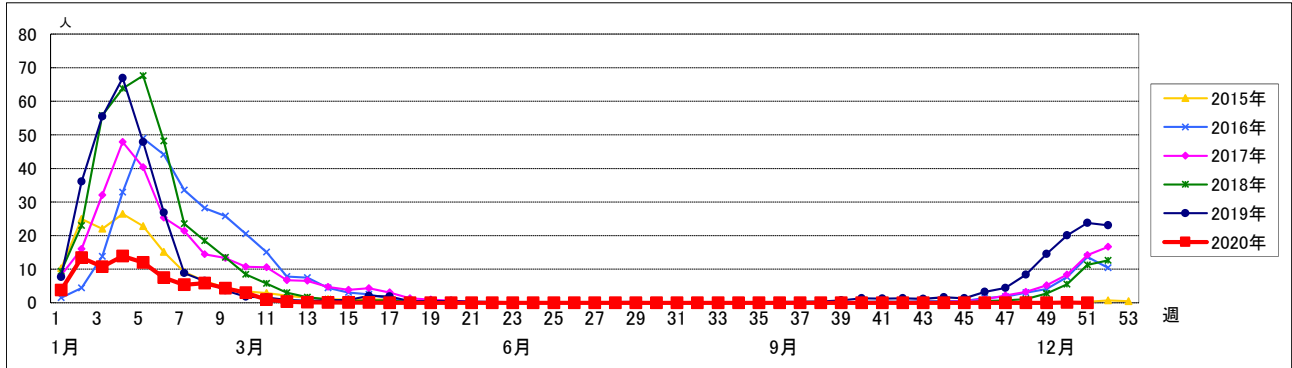


[週]

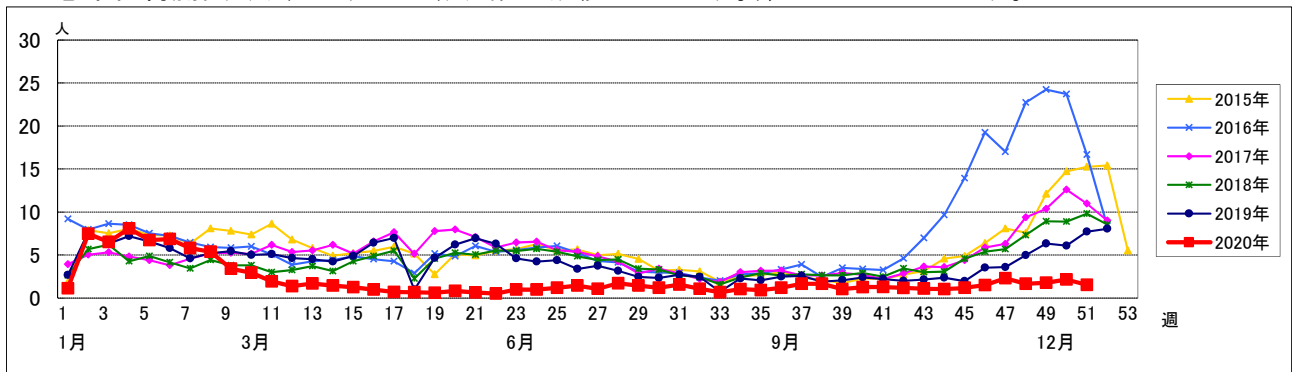
◇ 定点把握の対象:

報告週対応表	
第47週	11月16日～11月22日
第48週	11月23日～11月29日
第49週	11月30日～12月6日
第50週	12月7日～12月13日
第51週	12月14日～12月20日

1 インフルエンザ: 昨年は第40週で流行開始の目安(1.00)を上回り、第49週には流行注意報発令されましたが、今年は例年より低めの報告数で推移しており、第51週は0.02です。



2 感染性胃腸炎: 例年より低めの報告数で推移しています。第51週は1.51です。



3 性感染症(11月)

性器クラミジア感染症	男性:26件	女性:18件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:2件	女性:11件
尖圭コンジローマ	男性:0件	女性:4件	淋菌感染症	男性:7件	女性:2件

4 基幹定点週報

	第47週	第48週	第49週	第50週	第51週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(11月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	10件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

11月23日から12月20日までに病原体定点から搬入された検体は、小児科定点23件、内科定点1件、眼科定点1件、基幹定点3件でした。

ウイルス分離2株及びライノウイルス遺伝子5件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果12月期(2020年第48週～第51週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	無 呼 吸 発 作
アデノ 3型	1 —		
エコー 11型	1 —		
ライノ	— 2	— 2	— 1
合計	2 2	— 2	— 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

12月期(2020年第48週～第51週)の「菌株同定」依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、サルモネラ属菌1件、非定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌5件、劇症型溶血性レンサ球菌2件、非結核性抗酸菌(NTM)2検体の検査依頼がありました。

保健所からは、腸管出血性大腸菌4件の依頼がありました。

「分離同定」に関しては、基幹定点からマイコプラズマ1件、非定点からリケッチア2件の検査依頼がありました。保健所からは、レジオネラ2件の検査依頼がありました。小児科定点からは検査依頼はありませんでした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2020年第48週～第51週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等		
基幹定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)		
	サルモネラ属菌	1	<i>Salmonella</i> Panama (1)		
医療機関	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	5	<i>Klebsiella pneumoniae</i> (3)、 <i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)、 <i>Klebsiella oxytoca</i> (1)		
	非定点 劇症型溶血性レンサ球菌	2	B群溶血性レンサ球菌 III型 (1)、G群溶血性レンサ球菌 (1)		
	非結核性抗酸菌(NTM)	2	<i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>massiliense</i> (1)、 <i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>abscessus</i> (1)		
保健所	腸管出血性大腸菌	4	O91 : H+ VT1 (1)、 OUT : H- VT2 (1)、 O128 : H45 VT2 (1)、 O26 : H11 VT1 (1)		
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等	
基幹定点	髄液(1)	マイコプラズマ	1	<i>Mycoplasma pneumoniae</i> (PCR) 陰性 (1)	
医療機関	非定点	血清(1)・ 痂皮(1)	リケッチア	2	<i>Orientia tsutsugamushi</i> (nestedPCR) Kawasaki 陽性 (1)、陰性 (1) 紅斑熱群リケッチア 陰性(nestedPCR) (2)
保健所	喀痰	レジオネラ	2	不検出 (2)	

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。

今回は、当WEBページにおける令和2年12月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数は市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。また、令和2年2月の集計より、新Webアクセス解析システム「Matomo」による集計となります。

1 利用状況

(1) アクセス件数

令和2年12月の総アクセス数は、407,821件でした。前月に比べ26.9%増加しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター*87.6%、保健情報5.0%、検査情報月報3.8%、食品衛生0.6%、薬事0.5%、生活環境衛生0.5%でした。

* 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

12月のアクセス順位(表1)を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は、「横浜市感染症情報センタートップページ」、2位は、「旋毛虫感染症(トリヒナ症)について」、3位は、「ぎょう虫(蟯虫)症について」でした。2位の「旋毛虫感染症(トリヒナ症)について」は、ジビエブームの影響が考えられます。10位には、「EBウイルスと伝染性単核症について」が入っています。

表1 令和2年12月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	横浜市感染症情報センタートップページ	203,625
2	旋毛虫感染症(トリヒナ症)について	46,333
3	ぎょう虫(蟯虫)症について	6,145
4	衛生研究所トップページ	4,988
5	大麻(マリファナ)について	4,848
6	トキソプラズマ症について	4,677
7	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	3,697
8	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	3,641
9	死亡率・致死率(致命率)・死亡割合について	3,466
10	EBウイルスと伝染性単核症について	3,292

データ提供:市民局広報課

「横浜市感染症情報センタートップページ」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/idsc.html>

「旋毛虫感染症(トリヒナ症)について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/sa/trichinella1.html>

「ぎょう虫(蟯虫)症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ka/gyou1.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ

令和2年12月の問い合わせは、1件でした(表2)。

表2 令和2年12月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数
エキノコックス症について	1

2 追加・更新記事

令和2年12月に追加・更新した主な記事は、1件でした(表3)。

表3 令和2年12月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
12月 4日	感染症に気をつけよう(12月号)	掲載

【 感染症・疫学情報課 】